

# 中井だより

中井やまゆり園



## 新年スタート！「一陽来復」を願って

副園長 麻生 由美

新年、明けましておめでとうございます。新たな年の幕開けを皆さまはどのような感慨をお持ちになって迎えられましたでしょうか。

2022年の干支は、「壬（みずのえ）」の寅ですが、冬が厳しいほど乗り越えた春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれるという意味があるそうです。

振り返れば、ここ数年、当園にとっては、苦難の連続で正に“冬” コロナ禍による諸制約に加え、利用者支援や運営に対する厳しい指摘…

幸い、皆さまのご努力の甲斐があり、新型コロナウイルスの感染者を出すこともなく、短時間の面会も可能となり、ボランティア活動も一部ではありますが再開されており、“春”の気配が感じられつつあります。しかし、「長時間の居室施設と骨折事案の隠ぺい」との報道があったことから、本庁主導で昨年9月末に設置された「中井やまゆり園当事者目線の支援改革プロジェクト」の報告書は予定の12月にはまとまらず、年をまたぐこととなりました。既に「長時間の居室施設の廃止」「日中活動の充実」「地域生活移行の推進」など、課題に対する取組みは、可能なところから進めておりますが、まだまだ、道半ばです。

新たな取組みを進める中、170名の職員のみなさんがどんな思いで仕事をされているのかと考える時があります。対話は十分であったか、一方的ではなかったか、もっと、いいアイデアを持っている職員がいるのではないかと。

コロナ禍で、フィジカルディスタンス(身体的な距離)を取ることは、仕方のないことですが、こういう時こそ、特に心の距離は近くありたいと思います。社会情勢の変化も踏まえ、課や寮を越えしっかり議論し、私たち自身で変えていくべきこと、変えてはいけない大切なこと、職員一人ひとりがしっかりと見極めつつ、思いを一つにスタートを切っていきたいです。

自信を失うことなく、生き生きとした職員の姿は自ずと施設を活気付けさせます。こうした積み重ねは、「誠実さ」として職場の仲間、利用者の皆さん、家族の皆さんの気持ちへと伝播し、中井やまゆりの大きな力となっていくことでしょう。

中井やまゆり園は本年、開設50周年の記念すべき節目の年です。みんなで互いに助け合い、手を取り合って、一丸となって、必ずや明るい年にしようではありませんか。本年が「一陽来復」の年になることを信じていますし、それを実現できるかどうかは私達一人ひとりにかかっていると思います。